乗っ込みダイ最前線レポ3

南伊豆手石港発

今期の好調は太鼓判。乗っ込みの期待高まる南伊豆はエリア拡大中！

下田沖 本誌編集部◎沖藤 武竿

巻頭特集の取材先の振り分けは基本的に民主的に、ときに占いじみた相性などを加味しつつ決められる。

今回は御前崎、沼津、南伊豆の3カ所への取材を行ったわけだが、編集部の中で最も南伊豆のマダイ釣りに相性がいいのが自分だった。

南伊豆しかも手石港の米丸とくれば、個人的にはマダイ獲得率100パーセントであるばかりか、表紙を飾る確率も同様、つまりマダイが釣れるだけでなく過去の取材では天候にも恵まれているというわけだ。

その中で、3年前に米丸で偶然同船し、見事に大ダイを釣って表紙を飾ったのが、今回も同船していただいた坂東正明さんであった。

▲下田沖で迎えた1投目、いきなり竿先が絞り込まれた

1投目からアタリ まずは小型が釣れる

週末のたびに低気圧が通って数日間シケを繰り返していた3月のなかば、釣行予定日の13日はちょうどシケ後に出船できる日であった。

6時に手石港に集合し30分後に出船、ゆっくりと向かう先は冬から安定して釣れ続いている下田沖である。

「神子元はちょっと海が悪いみたいだからこっちで様子を見よう」と船長が示す南の海上は水平線がギザギザにとがっていた。

乗船者は右舷ミヨシに前出の坂東さん、胴の間に私、トモに森田さんの3名。

下田沖での第1投は指示ダナ43メートル。坂東さんと森田さんは慣れた手つきで投入し、コマセを振り出す。

さて。コマセを振り出すために指示ダナから何メートル下ろしていいのか船長に確認してみると、とくにアナウンスがない場合は7メートルほどでいいよ、とのこと。ちなみに水深は60メートルほどだから、低く見積もっても付けエサは海底から7メートル以上離れている。

流し始めてすぐにトモの森田さんが1枚目を掛ける。しばらくして坂東さんも掛けて、幸先よく2枚の本命が取り込まれた。

「こりゃ小さいよ～」と船長も笑う小型は全長25センチ、0.6キロ。南伊豆では平均で1キロ級というのが常だから、お2人ともキープしていいものか迷って苦笑いである。

続いての流しでは森田さんが若干大きめの2枚目を掛ける。

「小さいですよ、すみませんね」と謙遜しながらも、決して強引にヤリトリしないあたりは、さすがベテランである。

「潮がたるんできたから40メートルでいいよ」

9時を前に船長からの指示ダナが変更された。ポイントは朝から同じである。

「潮がたるんで、エサ取りも多いから、指示ダナから5メートルぐらいしか下ろさないようにして、コマセもたくさんまかないほうがいいかもね」との船長のアドバイスを実践してみると、さっそくグググン！と控えめに竿が絞り込まれて全長30センチ、後検量0.7キロが釣れる。

小さくても本命、まずはボウズのがれ、うれしいものである。

次投でもマダイらしきアタリが出てハリ掛かりを確信したのだが、巻き上げ中に抜けてしまった。と、同時に坂東さんに2枚目。でも、これも小ぶり。

▲「レーシングプロジェクト バンドウ」の坂東正明代表。船上では気さくな釣りオヤジといった感じだが、スーパーGTに参戦中の「ウェッズスポーツ レーシングチーム」の監督を務める

「それにしても今日は小さいのばかりだね、シケ後で水温が1度ぐらい下がっているからかな」

小さいのを釣らないでよ～と坂東さんをからかっている船長も、レギュラーサイズの1キロ級が顔を出さない現状にさすがに苦笑いである。

勝負はゲタを履くまで分からない？

10時すぎ、この日初めて付けエサが残ってきた。ちょっと渋ってきたかな……などと思ったがそれは逆だったようで、森田さん、私、坂東さんの順で続けざまにアタリが出て0.6～0.8キロが一気に3枚上がった。

続いての流しでも坂東さんが同級を釣り4枚とした直後、トモの森田さんが、「ちょっとはいい型ですね」と慎重にヤリトリをして後検量1.2キロの、当地のレギュラーサイズを釣り上げた。

繰り返しの撮影に協力していただき、あとはサイズアップを狙うだけとホッとしていると、置き竿にしていた私の竿が突っ込み、後検量0.8キロが上がった。

おお、なんとなく型がよくなってきたゾ！ と期待していると、またまた森田さんがヤリトリに突入し1キロ、続いて若干小型を釣り上げる。

この日、しばしば船長は、「いい反応が出てきたよ」とか、「いい感じで浮いてきたよ」とアナウンスしてくれるのだが、そんなときに限って自分の仕掛けは入れてからかなり時間がたっていて付けエサが残ってなさそうだったり、ちょうど入れ替えている時だったりする。

ようはタイミングというか間が悪いのか、そんなアナウンスの後に釣るのは決まって森田さん。その食わせる間は絶妙で、船長も感心するほどである。

その森田さんは、実は当日、2度バラしていた。1度はきっと1キロほどと思われる本命のスッポ抜け、2度目は明らかに大型と思われるヤリトリでのハリス切れであった。

大変惜しい話ではあるが、食わせないと竿は曲がらないわけだから、見ていて実にうらやましい。

さて、沖揚がりの1時を30分後にひかえ船長が最後の流しであることを告げると、坂東さんはコマセを片づけて最後の1投とした。

ひと流しで何回かは仕掛けを入れ替えられるのだが、一足早く終わるようだ。

「いやあ、今日は小さいのばかりで残念でしたね」

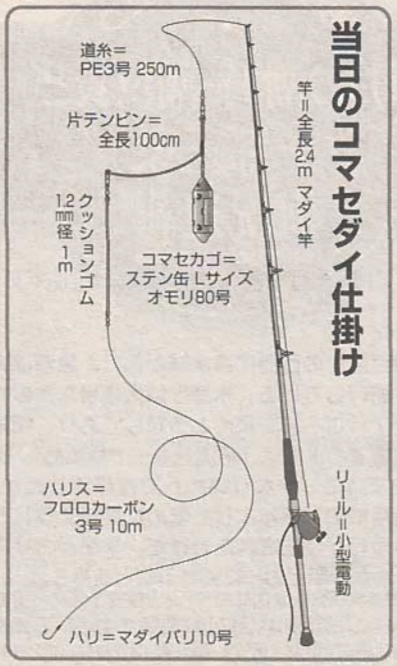
明日からスーパーGTの開幕戦を戦うために三重県の鈴鹿サーキットに移動する多忙な坂東さんに、お礼ともねぎらいともつかない声をかけようとミヨシを見ると、あれ？ 坂東さんがいたってまじめな表情で、無言でヤリトリを始めているではないか。

これで外道だったらズッコケるのだが、海面下に揺らめく白い影はハリスを一手たぐるたびに桜色に、大きくなる。

上がってきたのは当地で言うところの納得サイズ。決して大型ではないが、ラストの、それもあきらめかけた1投で1.2キロのマダイを手にしたのだから痛快である。

まさに勝負はゲタを履くまで分からない。釣りとモータースポーツがどう通じるかは別として、ときに予想を上回るどんでん返しが最後に待っているからこそ目が離せず、面白い。追記だが、4日後のスーパーGTの開幕戦も最終ラップに大どんでん返しが待っていたしね。

さて、本誌が出るころには当日狙った下田沖のほか、神子元、弓ケ浜、石廊崎と南伊豆のマダイ釣り場はエリアが拡大しているはず。まさにこれからが本番、たっぷりと楽しみましょう！



▲とにかくアタリっぱなしだった森田さん。さすがです

▲沖揚がりまで流し変えるたびにだれかにアタリがきた。あっと言う間の一日であった

★さばき方をDVDで見る レシピを本で『お魚料理入門』絶賛発売中!!

INFORMATION
南伊豆・手石港
米丸
☎0558・65・1060
（詳細は巻末の情報欄参照）
▶料金＝マダイ乗合13000円（コマセ、付けエサ、氷付き）
▶備考＝予約乗合。4月は5時半集合、6時出船、沖揚がり13時
肥田 定住船長